



GUNBOH

群 萌

第202号 2020年8月17日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-1

ルースビル402

TEL 03 (6452) 8806

FAX 03 (6452) 8807

発行責任者 寺前 敦司

編集者 化学総連事務局

gs03@kagaku-s.com



～コロナニマケズ～

全国化学労働組合総連合 会長 寺前 敦司

令和2年7月豪雨でお亡くなりになられた方々に、心よりお悔みを申し上げるとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。また被災地の一日も早い復旧を、心よりお祈り申し上げます。

さて、新型コロナウイルス（COVID-19）の発生に伴う2月26日の大規模イベント自粛ならびに翌日の一斉休校要請、さらには4月7日の緊急事態宣言と5月25日の同宣言解除、そして今日まで、十人十色な新しい生活様式を日々模索されていることと存じます。

コロナウイルスは目に見えず、インフルエンザと違って冬を過ぎてもしぶとく、特効薬はなく、もちろんワクチンもない。我々に出来ることといえば、手をこまめに洗い、外出時はマスクを着け、人込みを避けて暮らし、オンラインで酒を酌み交わす。東に感染者数が増大すれば、それが翌日の日本中の会話のきっかけに使われ、西でクラスターが発生すれば、各局こぞって夜のニュースのトップに流し、南でマスクが不足していると聞けば、ネットでマスクを高値で売りさばく者が現れ、北に消毒液が入荷したと聞けば、一人一つとかいてあるのにセルフレジで大量に買い占められていく。経済の再開を政府が模索するなか、地方の首長は地方へ来るなど指弾し、長く愛されてきた地元の飲食店が、日を追うごとに一つまた一つと消えていく。そういう時代に、私は慣れたくない。早く終わってほしいですね。

そんなコロナ禍の日常を将来に伝える取り組みが、静かに始まっています。大学の研究者らが主催するデジタルアーカイブ学会では、COVID-19に関する記録を残していく呼びかけをしており、それに呼応するように北海道の浦幌町立博物館では収集した新聞、雑誌、手作りマスク、道外ナンバーのための函館在住と書かれたステッカー、公共施設等の臨時休業や時間短縮などを知らせるチラシなどが展示されています。背景には、社会として前回の疫病の経験を上手く生かしていない反省があるようです。

日本では1918年から1920年に流行したスペインかぜの記録があまり残っておらず、このコロナ騒動が起こるまで多くの人を知る由もなかったと思います。昨年NHKにて放送された大河ドラマ「いだてん」は明治中期から1964年までを描いていますが、1923年の関東大震災は詳細に取り上げてはいるものの、その直前でかぜが流行っていたことについては、触れていなかったように見受けられました。また高校生向け歴史教科書の発行者として名高い山川出版社の最新参考書、「書き込み教科書詳説日本史 改訂版（日B309準拠）」にも出ていないようなので、自分を正当化する気満々ですが、昔から普通に勉強しているだけでは知りえなかった出来事なんですよ。

記録が残らなかった理由については、「いつから始まったのか明確ではないからだ」と述べている方がいて、なるほどなと感心させられました。皆さんは、初めてCOVID-19の報に触れた日を、自信を持って思い出せますか。平凡な私は1月16日から22日のどれかだったと回顧するのが精いっぱいですが、先日縁あって拝聴した「8割おじさん」こと西浦博教授は講演の中で、「12月31日に初めて聞いた」とはっきり仰っていました。あの海外逃亡劇のニュースの中で肺炎のニュースの虜になるとは、さすがプロフェッショナル。その後のご活躍はご存知のかたも多いことでしょう。

歴史に学べとはよく言われますが、そのためには当時どうだったのか正しく残っている必要があります。今は非常に大変で困難な時期ですが、一方で間違いなく歴史に残すべき出来事の渦中に生きています。次の世代にCOVID-19が正しく伝わるために、何か残す責務が我々にはあるのです。そこで私も一つ残してみました。それは、緊急事態宣言中に流れていた地元自治体からの一斉放送です。「ドミソド～。緊急事態宣言、発令中です。外出は、出来るだけ、控えましょう。」もう一度聞く日がこないことを切に祈る次第です。

（宮沢賢治氏（1896-1933）、「雨ニモマケズ」に敬意をこめて）

～2020年度イノベーションワークショップ開催報告～

去る7月17日(金)、三洋化成工業株式会社 本社ホールにおいて、人と技術の未来研究会主催の「2020年度イノベーションワークショップ」を開催しました。

イノベーションワークショップは、企業活動の将来の一端を担っている研究開発に従事する皆さんの日頃のご苦勞やプレッシャーに対して、少しでもヒントやモチベーション向上になるような場や情報を提供することを目的としています。今回は新型コロナウイルスの感染予防対策の一環としてWeb参加も併用して開催し、加盟各単組から20名の方に参加いただきました。

化学総連の寺前会長より開会の挨拶をいただいた後、人と技術の未来研究会の木村委員長（ダイセル労働組合 中央執行委員長）より化学総連および人と技術の未来研究会の活動について紹介いただきました。



化学総連 寺前会長による開会の挨拶 (Web)



人と技術の未来研究会 木村委員長による活動紹介

その後、技術の発展が著しいAI分野における気鋭の若手研究者である慶應義塾大学 総合政策学部 講師の小林凌雅先生に「AIの産業分野への活用の可能性および期待される人材像」と題してご講演いただきました。

AIを導入するプロセスは「1.課題の発見」「2.データ分析」「3.実際の施策」の3つに分けることができ、「1.課題の発見」では解決すべき価値のある課題を設定すること、「2.データ分析」ではInputとOutputのデータが揃っていること、「3.実際の施策」では導入したAIの使い方と効果をしっかりと考えることが重要とのことです。

AIに対して我々は「何でも解決してくれる魔法」というイメージを抱きがちですが、小林先生の講演を聞いて、AIはツールであり万能ではないことが分かりました。どう活用するかを見極めることが最も重要であり、AIというツールを上手く活用できる人材がこれからの時代に求められるように感じました。



小林先生によるご講演「AIの産業分野への活用の可能性および期待される人材像」



最後に、参加者による分科会を行いました。研究開発を活性化させるための施策、ならびに、研究開発の効率化や活性化にAIやIoT、ビッグデータ等を活用している事例について情報交換しました。この分科会に小林先生もご同席いただき、貴重なアドバイスを多数いただけたこともあり、大変有意義な分科会となりました。



Webを併用した分科会の様子(A班)



Webを併用した分科会の様子(B班)



Webを併用した分科会の様子(C班)



Webを併用した分科会での発表の様子

Web参加を併用してワークショップを開催するのは化学総連として初めての試みであり、手探りで準備を進めていきましたが、幸いにも、当日は大きなトラブルもなく、活発な意見交換ができ、良い会となったと考えております。講師の小林先生、企画や運営に携わっていただいた皆様、当日ご参加いただいた皆様、全ての皆様にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

人と技術の未来研究会では、このような「化学総連ならではの活動」「研究会らしい新たな試みへの挑戦」に引き続き取り組んでいきたいと思っております。

講師プロフィール

神奈川県平塚市出身。慶應義塾大学 総合政策学部 講師。統計学や機械学習の専門家として、マネックス・セゾン・ヴァンガードやコニカミノルタ等の企業や、神奈川県庁や北里大学、ハーバード大学等の公的機関等とデータにまつわる様々な共同研究を手掛ける。また、複数の企業においてアドバイザーも務める他、数々のAIベンチャーの立ち上げから運営にも貢献する等、多方面で活躍している。



小林 凌雅 氏

化学総連活動報告

【第95回調査担当者会議】

日 時 2020年7月1日(水)
場 所 フクラシア浜松町(+Web会議)
参加人数 19名



Webを併用した会議の様子

COVID-19の感染予防対策の一環としてWeb会議も併用して開催しました。今年度の活動を振り返った他、オプション調査結果報告、2019秋季労使交渉ならびに2020春季労使交渉に関する情報交換等を行い、質疑応答も含めて活発な議論が行われました。2020春季労使交渉は、COVID-19の感染が拡大する中での取り組みとなったため、各単組の苦労や創意工夫がうかがえました。

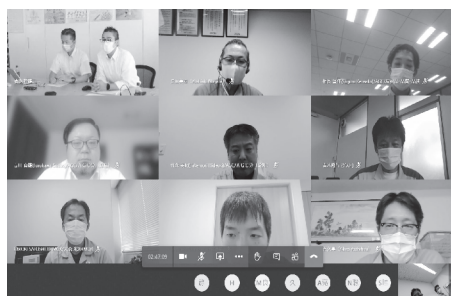
【2020年度 第2回全国地連代表者会議】

日 時 2020年7月10日(金)
場 所 化学総連 会議室、ホテルマイステイズ新大阪
コンファレンスセンター(+Web会議)
参加人数 27名



Webを併用した会議の様子(大阪会場)

東と西の2会場に分散させた上で、Web会議も併用して開催しました。会計監査の実施依頼、清掃ボランティアの実施状況、テーマアップアンケートの取り纏め結果、次年度の進め方等を説明し、今年度の総括ならびに次年度の計画について共有化を図りました。また、昨今の感染予防対策を鑑み、地連活動はFace to Faceを原則としながらも必要に応じてWeb会議を活用して欲しい旨を周知しました。



Web会議の様子

【2020年度 第3回書記長・事務局長会議】

日 時 2020年7月21日(火)
場 所 ホテルマイステイズ新大阪コンファレンス
センター(+Web会議)
参加人数 17名



Webを併用した会議の様子

組合の財政に関する勉強会ならびに情報交換を実施しました。勉強会では、三菱UFJ信託銀行株式会社の田中雄祐氏に労働組合の資産運用について講演いただき、具体的な事例に関する質疑応答を通じてさらに理解を深めました。情報交換では、組合の財政について情報共有ならびに質疑応答を行い、各単組での取り組みの一助に繋げました。